



天然林広葉樹の魅力



森林は、水を貯えるとともに国土の保全や生物多様性の保全、そして木材を生産するなど多様な働きをしてくれています。

これらの働きを維持していくためには、人工林だけでなく、天然林広葉樹も含めバランスよく整備していくことは、森林の様々な機能を維持させるために欠かせません。



針広混交林

では、森林の働きに沿って広葉樹の特徴をみると

- 林産物や森の恵みを提供⇒地域の特産品生産の場として利用⇒
シイタケを育てる、木炭をつくる、木工芸品をつくる
- 美しい景観を提供⇒多様な樹形や色彩、豊かな景観美から、保養休養の場の提供⇒
サクラなど花木を楽しむ、紅葉を楽しむ、豊かな森を味わう
- 水をはぐくみ⇒水資源のかん養機能⇒
広葉樹の落葉が堆積スポンジ状になり降雨を浸透させ、貯える
- 国土を保全⇒土砂崩壊防備機能⇒
多様な広葉樹が根を深く広く張ることから土砂の流出や崩壊に強い
- 野生動植物の生息・生育の場を提供⇒
植物相の豊富な広葉樹林は、動物の営巣や餌場⇒
野生動物・昆虫・きのこ・山野草のフィールド



潮風に強い樹木について

石狩管内は、日本海に面していることから海岸近くにも森林を多く見かけます。

そこで、今回は潮風に強い樹木を紹介します。



ハマナス

飛びぬけて強い樹木:ハマナス

非常に強い樹木:カシワ、モンタナマツ

強い樹木:イタヤカエデ、ギンドロ、ヤマグワ

クロマツ、トドマツ、アカエゾマツ

やや強い樹木:イチイ、ハリギリ、ニセアカシア

ハルニレ、イヌエンジュ

不向きな樹木:シラカンバ、ケヤマハンノキ

ニオイヒバ、カラマツ

知っていますか

木炭製造の副産物である木酢液は、脱臭効果の他に殺菌作用がありますが、水虫の原因である白癬菌に対しても効果があるそうです。



木酢液原液&希釈液

継続して木酢液を患部に直接塗り水虫が完治したとか！



葉の殺菌

木酢液は、土壌殺菌剤として、日用品大型量販店の園芸コーナーでも販売していますので、水虫に悩んでいる方、試してみたい方はいかがでしょうか！

(一部引用:北海道木材利用推進協議会:人と環境にやさしい「木」)

HP公開中:<http://www.ishikari.pref.hokkaido.lg.jp/sr/srs/densyobato.htm>

もりの伝書鳩

検索



石狩振興局森林室普及課情報誌

令和3年秋号

発行 石狩振興局森林室普及課

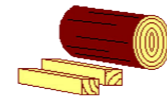
住所 当別町栄町192-7

TEL:0133-22-2161

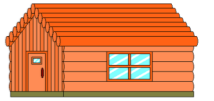
FAX:0133-22-0551



もりの伝書鳩



地域材の利用を推進しています！



当森林室普及課では、今年度の林業普及指導活動の重点的な取組として「地域材の利用推進」をテーマに活動を展開しています。

その1つとして、管内の4つの町で地域材の利用を推進するためのパネル展を開催しています。

今号が発行される頃には、新篠津村での開催は終了していますが、8月末から10月末にかけて石狩市から恵庭市、江別市と順次開催していきます【石狩市:道の駅あいろーど・8/20~24、恵庭市:道と川の駅花ロードえにわ・9/17~21、江別市:江別河川防災ステーション・10/8~12】。



新型コロナウイルス感染拡大の影響から世界的な巣ごもり状態が続いた影響で、アメリカでは感染リスクを避けるため、都市部から郊外への移住が進み、その結果として住宅建築数が増大し、木材需要に異常な高まりをもたらしています。

そのため、国内では、ウッドショックと言われる輸入材の高騰や輸入量の減少が社会現象になっています。

本道においても、道産材の需要が急激に高まっており、輸入材から道産材への利用の転換を図るため、道産材の供給力の強化を図ることが必要です。

このため、北海道として、原木供給量の増加はもちろんのこと、製材工場とプレカット工場との連携強化、木材乾燥施設整備に対する支援など道産木材を安定的に供給する体制の強化に取り組んでいます。

時間がかかる問題ですが、地域にお住まいの皆さんの理解を得るため開催しているパネル展です。

是非ご覧いただければと思います。

グイマツ雑種F1とは！

ロシアのサハリンや千島列島に自生しているグイマツを母親、日本のカラマツを父親としてかけあわせて出来る樹種です。

特徴は、カラマツと比べてエゾヤチネズミの食害を受け難く、初期成長が早いことに加え、気象害、病害虫にも強いなど造林の安全性に優れています。

さらに、木材として利用価値もカラマツ以上です。

これらのことから、森林資源の循環利用に最も適した造林樹種として期待されています。

また、低コスト林業の実現にむけ、ha当たりの植栽本数が1,000本(その他樹種1,500本)以上で補助対象となることから、苗木代、植付費、除間伐費用が軽減されます。

なお、造林希望者が多いため、苗木がすぐに売れてしまいますので、森林組合への予約は早めにご確認ください。

(一部引用:北海道:植える本数を減らしてみませんか)

「樹液の出る仕組み」と「昆虫がよく集まる樹種」

広葉樹は、導管と呼ばれる管で根から水分を吸い上げ、葉で光合成を行って、出来た養分を師管(しかん)という管でおろしてきます。

この途中で、何らかの要因により付いた傷などから漏れたものが樹液です。

樹液は、樹木にとっては傷口からしたたる血液のようなものであり、そこに群がる昆虫たちは、一方的に恩恵を受けているだけだと考えられます。

樹液は、昼夜問わずに出っていますが、昼の樹液を支配するのがオオスズメバチですが黄昏ともにあっさりとした場所を譲り、カブトムシやクワガタが支配する夜の部に舞台が切り替わっていきます。

昆虫にとって最大の敵は鳥で、昼間よりも鳥が寝ている夜に活動する方がずっと安全です。

樹液の出る量も昼よりも夜の方が多くなります。

これは、光合成を昼間に行うという植物の昼夜のリズムによるもので、昼の生産物が師管で運ばれるのは、おもに夜間プロセスということになるようです。

また、夜は日射の影響もなく、気温が低いことから樹液が蒸発しにくいということも樹液量の安定に寄与していると思われます。

では、最後に北海道でカブトムシやクワガタ等の昆虫がよく集まる樹種を紹介いたします。

それは、ミズナラ、コナラ、クリ、ハルニレ、タチヤナギ、オノエヤナギです。

【引用:文一総合出版:樹液に集まる昆虫】



ハルニレ



ミヤマクワガタ♀



樹木の種子の散布方法について



適切に密度管理された人工林内に広葉樹が侵入して良好な生育をしている林分を見かけます。

このような林分は、国土の保全や生物多様性の保全からも理想的です。

これらの種子はどのように運ばれて来るのでしょうか？

代表的な樹木の種子の散布方法について説明します。

◎風による散布

◇翼をもつもの⇒イタヤカエデ、ハルニレ、シナノキ、カバ類

◇綿毛をもつもの⇒ヤナギ、ポプラ、ドロノキ

◎鳥がフンと共に散布

果肉を付けた木の実となり、鳥が食べフンと一緒に林内に種子を散布

ハリギリ、ミズキ、アズキナシ、キハダ

◎貯食する動物が散布

ネズミやリスが冬場の餌を貯えるため埋めた種子が発芽

ミズナラ、カシワ、クルミ

以上、自然界では営々と子孫を増やすための働きが継続されてます。



シナノキの種子



イタヤカエデの種子



ミズナラの種子

ドングリ



シマリス



人工林間伐の選木方法について



人工林の間伐を地元の森林組合に委託されている方が多いと思いますが、間伐方法には、大きく分けて三つの方法があります。

一つ目が、「定性間伐」形質不良木や野ネズミ、エゾシカ被害木を選木して間伐する方法。

二つ目が、「定量間伐」事前に決めた伐採率に応じた本数を機械的に列状等で間伐する方法。

三つ目が、「併用間伐」列状間伐等「定量間伐」の後、残した立木を「定性間伐」する方法。

そこで、今回提案したいのが、最後まで(皆伐時)残す将来木(立て木)を選木する方法です。

皆さんもご存じのとおり、カラマツやトドマツの林内を巡回していると、何本か一本は幹が通直で太く、幹に野ネズミやエゾシカの被害が無く、樹冠長(樹高に対する生き枝の割合)が4割以上ある優良木があると思います。

そのような立木を選木し、後継者の方が後々分かるように将来木(立て木)に油性ペンキでマーキングする方法です。

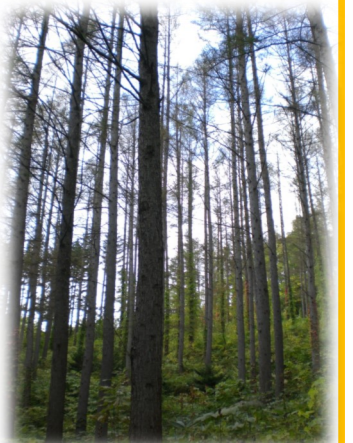
森林組合に間伐を委託する際は、マーキングした将来木(立て木)に傷を付けないよう周りの立木を「定性間伐」してもらいます。

そうすると、形質良好な電柱のようなカラマツやトドマツと緑鮮やかな広葉樹が混生する針広混交林に誘導することが可能となります。

当森林室普及課に連絡いただければ、一緒に選木をお手伝いいたします。



グイマツ雑種F1と下層に生えた広葉樹



カラマツ長伐期林分

ツル(蔓)も時には役に立つ

林内を巡回しているとツルアジサイやコクワ等のツルが幹に巻き付いているのを見かけます。

これらのツルは、形質不良の原因となることから、定期的にツル切りを行う必要があります。

そこで、ツルの切り方ですが、地際から1~2mの高さで切ることをお勧めします。

樹木は、幹を一周するようにエゾヤチネズミに食害されると、光合成で得た栄養分を根に運ぶことが出来ず根が枯死し立木も枯れてしまいます。

そこで、ツルを地際から1~2m残すことで幹とツルが接している箇所は食害をされずに済みます。

かつて、会社有林に行った際、カラマツの大径木の地際に横5cm縦20cmぐらいの鉄板が打ち付けられていました。

その理由を社員の方に尋ねるとエゾヤチネズミの食害による枯損を防ぐための試験をしていることのことでした。

エゾヤチネズミは、小中径木だけでなく大径木も食害します、この方法を是非お試しください。



ヤマブドウ